

(様式1)

地域密着型サービス事業者 自己評価表
(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム北陽	評価実施年月日	平成20年6月16日
評価実施構成員氏名	管理者 竹村佳生 リーダー 飛内千穂 ケアワーカー 山崎あけみ ケアワーカー 浅野典子		
記録者氏名	管理者 竹村佳生	記録年月日	平成20年6月20日

北海道

項	目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で快適に暮らせるような為の柔軟な支援を理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業計画書等に記載し全ての職員に手渡ししている。また、玄関ホールと職員コーナーに掲示し、毎朝、申し送り時に唱和している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報誌を発行し家族や地域に配布している。また、運営推進会議や家族参加の行事の際に説明している。	○	広報誌の創刊号には理念が明記されていたがその後明記されていない。今後は、必ず明記し、理念の浸透を図る努力をする。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との散歩途中、近隣住民や子ども達と挨拶を交わす。特に子ども達はホーム内まで遊びに来てくれることもある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加盟し町内会活動に参加し地域との交流を持っている。また、地域の小学校とも連携し行事に参加するなど異世代交流を図っている。	○	町内会の夏祭りや清掃活動、小学校の行事への参加に取り組んでいる。今後は小学校のベルマーク運動に協力したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を生かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	老人クラブ等に見学していただいている。また、入居希望の方でGH対象外の方には他施設の紹介を行っている。	○	キャラバンメイトとしての活動で地域住民に認知症の勉強会を開催しているが、機会を増やしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の目的意義を全職員に周知し、意見を聞きながら取り組むようにしている。また、外部評価の結果も全職員に周知し改善するように努力している。	○	前回自己評価からの要改善点を出来るだけ早く改善できるようにしたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の生活の状態を中心に報告し、意見をもらうようにしている。	○	ホーム周辺の環境拡充を図るよう自治体に要請してもらっている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの要請で生活保護の利用者の受け入れをしている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ権利擁護事業や成年後見制度を必要とする利用者はいなく、一部分の職員しか制度等を理解できていない。	○	今後、十分に必要となる事も考えられるので、知識・情報を共有し、即対応できるような体制作りをして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関 連法について学ぶ機会を持ち、利用者 の自宅や事業所内で虐待が見過ごされ ることがないように注意を払い、防止に努め ている	身体的虐待他、精神的虐待等理解しており遵守 されている。	○	入居時や外泊から帰ってきた際の身体観察を 欠かさないようにしている。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用 者や家族等の不安、疑問を尋ね、十分 な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームの理念や取り組み等、ホームの 対応可能な範囲についての説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者 や職員ならびに外部者へ表せる機会 を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動からその思いを察し、その都度その 思いを聞く機会を作っている。その場で判断出来 ない場合は職員間で話し合いを設けている。		
14	○家族への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせ た報告をしている	広報誌を発行しその都度配布している。面会時は もちろんの事、状態変化があれば常に電話やメー ルで報告をしている。	○	広報誌のほか利用料請求書の発送時に 連絡する事もある。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者 や職員ならびに外部者へ表せる機会 を設け、それらを運営に反映させている	家族が一斉に集まる機会は行事の時しかない。 面会時や電話で個々に意見や要望は聞ける 状態にあるが積極的に聞くことはしていない。	○	家族に対してアンケートを実施したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職 員の意見や提案を聞く機会を設け、反映 させている	会議以外でも普段から日常的に意見や要望、疑 問の吸い上げを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態変化や職員の急病の時は管理者のみならず職員間でカバーしている。	○	お互いを思いやる職員が集まり、助け合いながら利用者の支援に支障なく対応できている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を崩さない為に基本的にはユニット固定している。離職等やむを得ない場合は時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修に多くの職員が受講できるようにしている。また、報告書を提出させている。	○	自主研修も行っている。 様々なテーマで自施設勉強会を行いたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている	南北海道GH連絡協議会に加盟しスタッフ研修等に参加し質の向上に励んでいる。	○	今後、相互交換研修を行いたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者本位で建築したため、ハード面ではスタッフの緩和や気分転換できる休憩室はない。しかし、親睦会を開いたりボウリング大会を開催するなどの努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取 り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力 や実績、勤務状況を把握し、各自が向上 心を持って働けるように努めている	上級資格取得に向けた支援をしている。	○	人事考課を取り入れたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っ ていること、不安なこと、求めていること 等を本人自身からよく聴く機会をつくり、 受けとめる努力をしている	面談時、利用者から話を聴くことはあるが、あくま でも入居前段階であり、はっきりとした入居意思が ないままの状態では信頼関係は築けない。	○	今後、入居の際に、明確な入居の意思がある 人についてはできるだけ受け止めたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が 困っていること、不安なこと、求めている こと等を本人自身からよく聴く機会をつく り、受けとめる努力をしている	家族の求めていることを把握し、出きる事、出来な い事、リスク等を説明している。	○	入居してからのリスクも説明している。 (環境の変化等)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「そ の時」まず必要としている支援を見極め 他のサービス利用も含めた対応に努め ている	本人の状況、家族の思いを確認し、他の当該事 業所を紹介する場合もある。	○	他地域のケースや本人の状況がそぐわない 場合はネットワークを利用し他施設の紹介を 行う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり開 始するのではなく、職員や他の利用者、 場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等 と相談しながら工夫している	見学してから入居された例はあるがなじみの関 係が出来ていたとはいえない。	○	ホーム対利用予定者が入居時に馴染みの関係 でいられることは稀なので、関係者の協力を 仰いだり、コツコツと職員が安心感を与えるほか はない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野や興味を把握し、それぞれの役割を持ってもらえるようにしている。 職員がわざと失敗をすることで心配や励ましの言葉を発してもらっている。	○	裁縫や踊りを通じ利用者の生き生きとした表情を引き出している。
28 ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	状況の悪化があれば、家族にその都度報告し過去の生活や家族しか知り得ない情報から問題打開のヒントを貰っている。	○	数枚のフェースシートでは十分な情報とは言えず、細かなことも確認できるような関係を築いている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状態を見極めながら家族と外出できる様、連絡支援している。	○	本人の精神状況をみて家族によって気分転換を図れるように対応している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に来てもらったり、また出かけたりして交流を途切れないようにしている。	○	場合によっては職員が送迎することもある。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	勝手に出来た上下関係、嫉妬心等に配慮して細やかな調整、何気ない介入に努めている。	○	被害妄想で言えば点と点が線にならない様に事前に調整している。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	積極的な取り組みはしていないが、契約終了後の家族と会ったとき自然に会話できる関係の状態で契約を終了している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情などから思いを汲み取るようにしている。また、家族との情報交換により把握するよう努めている。	○	思いを表出できない利用者には、複数の選択肢を与え、その表情を見て把握している。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話の他、家族や知人、関係者から話を聴いている。	○	入居前、入居時は勿論、入居が始まってからもその都度会話の中で確認している。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体・精神、両面から生活リズムを把握し、小さな変化を見逃さないよう努めている。	○	日々変化する利用者の状態を把握し、状況・状態にあったケアに努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活の様子から本人の思いや希望を見つけ出し更に家族の要望や思いを聴き、全スタッフで意見交換、カンファレンスをし、結果を介護計画に反映させている。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化が見られた時、変化が見られそうな場合は、本人、家族の要望を再確認し、見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに身体・精神的状況を記載している。勤務開始前は必ず確認し、情報を共有している。	○	不穏時の本人の言動、きっかけとなった要因等の詳細も記載し、今後の不穏予防、不穏時の対応に反映させている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院に関して、基本的には家族に対応してもらうが、家族の諸事情によりホームで対応している場合もある。	○	原則はあくまで原則であって、その時々々の利用者、家族、職員の状況に合わせて柔軟に対応して行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接している公共の施設で行事を行っている。小学校や幼稚園との交流も行っている。	○	子ども達と触れ合うことで利用者の活性が高まっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するため支援をしている	訪問理美容を利用し馴染みの関係作りが出来ている。	○	様々な方向に目を向け利用者に合ったものがあれば活用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、包括支援センターと協働している	情報や支援などの情報交換を行っている。また、運営推進会議の委員として参加してもらっている。	○	必要があればその都度、情報交換して利用者・家族の意向に沿った支援をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、 納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	協力医療機関の往診以外での受診は基本的には 家族対応となっているが、不可能時は職員対応を している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係 を築きながら、職員が相談したり、利用 者が認知症に関する診断や治療を受け られるよう支援している	嘱託医が脳外科の専門医であり、利用者の状況 の変化について常に相談できる体制になってい る。(24時間体制で相談できる)		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地 域の看護職と気軽に相談しながら、日常 の健康管理や医療活用の支援をしてい る	嘱託医、看護師へ常時連絡が取れる体制をとり 著変があれば相談している。 (24時間体制でサポートが受けられる)		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせ るよう、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。あるいは、そうした場合 に備えて連携している	入院時は頻繁に見舞うほか、病院との連絡を密に とり、ホーム対応可能な段階で早期に連絡が来る よう努めている。	○	失見当識防止の為、頻繁に見舞いを行って いる。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する具体的な取り組みはされていな いが、日常の健康管理や急変時の対応が出来る ように努めている。	○	終末期ケアに対する方針を確立したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	具体的な取り組みはされていない。	○	終末期ケアの学習。 職員個々の考えを十分に出し合い全体で支援する為の準備をしたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らし方、環境、身体面・精神面の状態を伝達し、工夫していた事や注意点など十分な情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	○	常に徹底を心掛けているが、申し送り時や会議の際に話し合い、職員間で意識を高めたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者の人格を尊重し不快な言葉や自尊心を傷つける言葉掛けはしない。また、人前であからさまに介護をしたり本人を傷つけてしまわないように目立たずさりげない言葉掛けや対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れの中で一人ひとりのペースを大切に「その日」したいことを把握し利用者が主人公となって暮らせるよう支援している。	○	散歩、買い物、ドライブ等一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみを本人の自己表現の一つとして、本人の好みで整えられるよう支援している。また希望に沿って訪問理美容や好きな店に行ける様に努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査をして献立に組み入れている。おやつ作りや簡単な調理を一緒に行っている。	○	現在、業者による食材納品だが今後はおやつ以外にも部分的に利用者と一緒に買い物に出掛け、食に繋がる楽しさを感じていただきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子を見ながらそれらを楽しめるように支援している。	○	嗜好品を職員と利用者が一緒に購入しに行く。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの力や排泄パターンを活かして気持ちよく排泄出来る様に支援している。	○	時間や習慣を把握しトイレ誘導をすることで失敗を軽減させ利用者の落ち込みを無くし自信をつけて頂けるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	女性利用者は基本的に同性介助を行っているがシフトの都合で異性介助になる場合は特に配慮している。 浴室を銭湯風にアレンジして雰囲気作りも心掛けている。一日の入浴者を3名程度にし、ゆっくり入浴できるようにしている。	○	基本的に曜日、時間が決められているが、利用者から希望があれば出来る限り調整対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	大まかな一日の流れの中で一人ひとりの生活リズムを整えられるよう努めている。	○	日中の活動を促し自然睡眠を目標としているが睡眠薬等を服薬している利用者も多い。ただ、睡眠薬等を使用していて睡眠状態に変化が表れてきた時はその都度医師と相談し、薬の調整を行ってもらっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野を見つけ出し、役割として生活している張り合いを感じてもらえるよう支援している。またその役割を当然のようにやってもらうのではなく、その都度感謝の言葉を浴びている。	○	身体にしみこんだ作業をすることで張り合いを感じる事が出来るが、昔のようにスムーズに出来ない場合があるので、自尊心を傷つけない様にフォローに入るように支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて現金を所持したり使えるように支援している。	○	買い物等に出掛け嗜好品を購入する事もあるが金銭感覚の麻痺や物盗られ妄想によって混乱を起こす方もおり、家族との調整や職員の対応を今後見直すようにしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう日常的に散歩やドライブ等に出かけている。	○	散歩やドライブ等に日常的に出掛けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方であれば職員での対応は現在、対応出来ないが家族の協力を仰ぐ事はしている。また近場でも相手の方に迷惑を掛けるような場合は対応していない。	○	本人の希望する場所が逆に混乱・不穏を起こすかも知れないという思いが働き、対応できていない場合もあるので、今後協議していきたい。以前住まれていた施設に遊びに行く事がある。
63	○電話や手紙お支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には支援できているが、事前に相手先に確認をとり迷惑がられているようであれば、都度調整している。	○	電話や手紙は相手がいることなので、先方の意思を確認した上で断る事もあれば、逆に協力を依頼をすることもある。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常識範囲内であれば特に時間は定めておらず、いつでも来ていただけるような配慮をしている。	○	居室やホール内、その都度訪問者のスペースを整えゆつくりと過ごしていただけるように家具の配置を変えることもある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議、申し送りにケアの内容で職員が自覚しない身体拘束が行われていないか互いに確認している。	○	身体拘束しないため、見守り強化で対応している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に利用者への目配り・気配りを心がけ、利用者が外へ出たい様子があればスタッフが一緒について行くように支援している。	○	他ユニットの利用者が外出しようとしていれば職員間で連携を取り、ユニットは関係なく外出見守りしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中夜間と職員が見守っており利用者の動きに即対応できる態勢を整えている。	○	各居室・ホールが見渡せる場所に事務所を設えている。利用者の尊厳を守る為、記録は事務所で対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ自己管理できる物、ホーム管理が必要な物とに分け、その都度利用者の要求に対応できるようにしている。	○	利用者間で自己管理・ホーム管理している物の混乱が生じないように、会話内容にも配慮して行きたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議・申し送り等で利用者一人ひとりの状態から予測される危険を検討し事故を未然に防ぐように工夫している。事故発生後は速やかに事故報告書等を記入し今後の対策を検討している。	○	行方不明時の対応として、危険性の有無に関わらず当該利用者の写真や特徴等の情報を速やかに近隣に配布し捜索協力できるよう準備を整えたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急救命の講習を受講している。	○	今以上の訓練・勉強会等を実施して、全ての職員が冷静に対応できる能力を持てるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回利用者と共に避難訓練を行っている。	○	防災設備業者の協力を受け、消火器を使った訓練を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	自由に暮らす事で利用者の表情が明るくなるのでホームでの取り組み等を家族へ丁寧に説明し、理解を得ている。	○	利用者の状態に変化があればその都度、起こりうるリスクの説明をしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結びつけている	普段の体調を職員が把握しており、些細な表情の変化や食欲、様子等を気をつけて見ている。また、変化があった時はバイタルチェックを行い、状況によっては主治医の指示を仰ぎ対応している。	○	毎日、バイタルチェックを行い、食事摂取や水分摂取も行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にケースへ保管し、職員が確認できるようにしている。服薬は本人に直接手渡し服薬確認をしている。	○	薬袋に日付を記入し誤薬防止を徹底している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や運動の働きかけをしている。	○	自然排便が出来るように適度な運動として家事作業等で身体を動かす機会を増やして行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、食後の歯磨きの声掛けを実施し、職員が見守り・介助を行っている。	○	義歯洗浄剤は基本的に毎晩使用し、最低でも週に一回は行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取のチェックを行い、職員間で情報を共有している。また、食事の盛り付け量は一人ひとりに合った量に調整している。	○	禁忌食材、苦手食材がある場合は代替品をしようしてバランス調整をしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し職員が学習し、予防・対策に努めている。また、情報の収集を行い早期発見・早期対応に努めている。	○	利用者及び家族の同意を受けインフルエンザ予防接種をしている。汚物処理は手袋をつけ個々に袋に入れた上でゴミ箱に廃棄している。定期的な勉強会を実施したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の漂白、布巾は漂白後洗濯している。利用者の食べ残しは都度廃棄している。	○	食品調理衛生マニュアルをもとに危機管理意識をもって行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	清潔保持を第一に、ブランターを置いたりウッドデッキを設置している。また、犬を飼育しており地域の子供たちが遊びに来ている。	○	施設という堅苦しさを取り除けるように、暖かなイメージの看板や装飾を施したい。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットで季節感を味わえる装飾や懐かしさのある装飾をし、利用者と共に五感で感じ、楽しめる工夫をしている。	○	四季に合わせた装飾を施したり、珽瑯看板やポスターを貼り付けている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隠れ家的スペースを用意したり、玄関には椅子を置き、外の風景を見ながら数人で談話できる様な空間を作っている。	○	ホール内に用意している隠れ家的スペースを利用者に周知し活用していきたい。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を用意している。	○	殺風景な居室の利用者もいるので、家族と相談し少しずつ馴染みのある居室作りに努めたい。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレでは換気扇と消臭剤で対応している。ホール内では温度、湿度に配慮し利用者の状態を踏まえたうえで加湿器・暖房・換気に対応している。	○	乾燥する時期は特に湿度に注意し55%を基準に調整したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺は当初から設置しているが利用者の状態に合わせ、その都度設置している。またただ手摺を設置するだけではなく家具の配置を変える事で利用者の自立意識を高める事も考慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の混乱・失敗をもとに試行錯誤しながらではあるが対応、環境を変え対応している。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり畑で野菜を作ったりし育てる喜び、見る喜び、食べる喜びに繋げている。	○	冬期間は外に出る機会が少なくなるが北国らしい冬の演出をしホーム内から楽しめる様に工夫していきたい。
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○で囲むこと)		
V. サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○で囲むこと)
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②利用者の2/3くらいと ③利用者の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○で囲むこと)
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2/3くらいが ☐ ③家族等の1/3くらいが ☐ ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

①小学校や幼稚園と異世代交流を実施すると共に、ボランティアを積極的に受け入れている。

②利用者との話し合いで、随時利用者とスタッフが少人数で、外食や買い物、ドライブ等を楽しめる企画を行なっている。

③地域の行事(お祭り、町内会環境整備等)に利用者とスタッフが共に参加する。

④後進育成のため、ヘルパー養成講座の実習生を積極的に受け入れている(ホーム全体として昨年度延べ87名)。

⑤地産・地消の取り組みとし、地元の農家から直接「ふっくりんこ」を購入している。

⑥スタッフのスキルアップのため、毎年実践者研修や管理者研修を受講している。(ホーム全体として修了者4名、今年度受講中1名、今年度受講予定1名)

⑦地域貢献とスキルアップのため、キャラバン・メイトの講習を積極的に受講している。(ホーム全体として修了者6名)

⑧利用者と共に花壇づくりに取り組んだり、歌を歌うなどの活動を取り入れている。